

福祉と住環境を考える



ふくてっく

2016年6月
第90号

特定非営利活動法人

ふくてっく

559-0034 大阪市住之江区南港北 2-1-10 ATC・ITM 棟 11F エイブル L
TEL 06-6614-6800
mail@fukutech.sakura.ne.jp http://fukutech.sakura.ne.jp/

青葉園との二〇年余

そして「ふれぼの」

西宮に地域共生館「ふれぼの」が誕生した。その意味を語るには一九六七年のわかば園、次いで一九八一年の青葉園発足に遡らねばならない。重度に心身の障がい併せ持つて生まれた子どもが地域の行き場として、前者は就学前の通園施設として、後者は就学後の法外施設として歩みはじめ、法的縛りにとらわれず、純粹に本人が生きていくために必要な事業を展開してきた。青葉園はその後の法制度整備に伴って、身体障害者通所授産施設を経て生活介護事業と看板を替えてきたが、常に先駆的な取組が、西宮市の福祉施策の柱となってきた。徹底的に入所処遇を避けて、地域での当たり前の生活を支えてきた運動は、地域福祉推進の今日的テーマに他ならない。

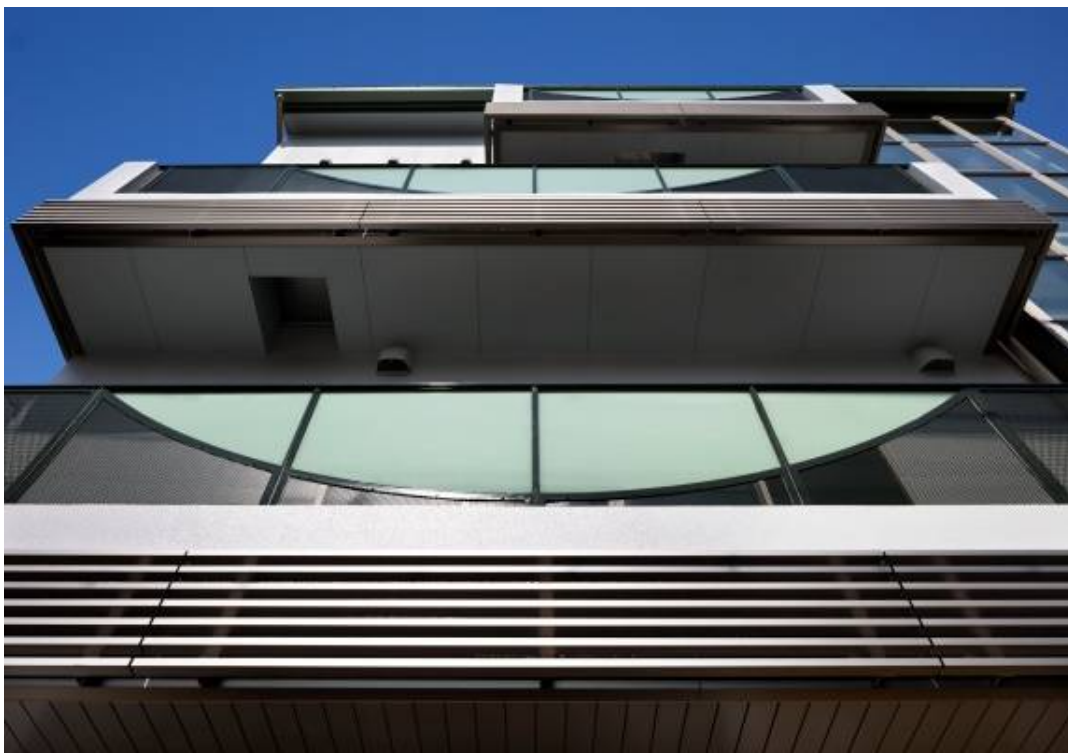
ふくてっく、そして私が青葉園とかかわったのは二十一年前の阪神淡路大震災直後であった。ふくてっく発足間もないころであったが、当時、朝日新聞厚生文化事業団に在籍されていた石田易司氏（現、桃山学院大学教授）が、突然「お前ら障がいの仮設住宅を造れんか」と言われてこられた、これに呼応して立ち上がったのだった。その時のハウスは応急仮設建築として建造したものであったが、二棟のうち一棟はリニューアルして今なお青葉園の活動の場として活用（こもれびハウス）されている。私は、震災後の青葉園とは途切れることなく親交を温め、こもれびハウスのリニューアルはもちろん、建築家としての活動を様々にさせていたきてきた。私の建築活動が、今ではすっかり障がい福祉に特化していることには、ふくてっくとともに、青葉園とこのうした長年の歴史がある。建築家としても人としても、大いに学ばせていただき、今日の私があるのは青葉園のおかげと行って過言ではない。

さて、地域共生館「ふれぼの」であるが、これは西宮市家用自動車協会という団体が解散し、福祉目的使用を条件に、その資産を市に寄付されたのである。それを受けて、市が西宮市社会福祉協議会にその活用を託し、手狭になり始めていた青葉園の拡張とともに、地域福祉の新たな推進の核にしようと企画したものである。この設計監理に携わることができたことは、無上の喜びであり、青葉園とともに温めてきた思いをここに集大成する機会であった。ふれぼのには、青葉園の重症心身障害者生活介護事業の一部を拡張移転されるが、ただそれにとどまらず、様々な場を設定して地域市民活動を振興し、あるいは地域生活困難者の自立支援や福祉人材育成を目指している。

重症心身障害福祉という、社会課題をむしろ社会資源として、社会を対立軸で捉えるのではなく双方協働構築型で創造して行こうとする、画期的な事業である。西宮市社協常務理事、清水明彦氏はいわく、「ポイントは心

を動かしてゆくこと、面白がらせること、そして町全体をエンパワメントしてゆくことだ」。ふれぼのが、そうした西宮独自の福祉観を全国に発信する基地となることを切に願う。

（中北 清）



地域共生館 ふれぼの

こむねっと部会

福祉サービス第三者評価の 展望と可能性



福祉サービス第三者評価が、ようやく動き出す。福祉サービス第三者評価（以下「第三者評価」という）とは、社会福祉法第 78 条第 1 項の規定「社会福祉事業の経営者は、自らその提供する福祉サービスの質の評価を行うことその他の措置を講ずることにより、常に福祉サービスを受ける者の立場に立って良質かつ適切な福祉サービスを提供するよう努めなければならない。」に基づいている。自己評価を第三者が確認し、その改善努力を支援することが第三者評価である。

その効果は、

1. 利用者の安全、権利擁護、職員の資質向上、中長期計画の展望等々、健全な福祉事業運営のヒントを得る。
2. 評価のプロセスを通じて、気づきや課題の共有化を図る。
3. 利用者や家族等の意向を客観的に把握することを通じて、利用者本位のサービスづくりに役立つ。

といった具合に、提供サービスの質の向上に資する事が第一にある。また、評価が公表されることにより、利用者や家族等が求めるサービスを選択するために資することも重要な目標としている。

こうして第三者評価は平成 17 年にスタートしたのであるが、一部の府県を除いて、受審状況は芳しくないまま 10 年余が経過している。当会も初年度以降、評価実績は数えるほどしかない。大阪府の認証機関も累計 50 を数えるが、存続しているのは 16 に留まる。しかも受審は一部機関に集中していて、多くの機関は活動機会に恵まれていない。

受審低迷にはいくつかの因があるが、受審事業所の負担の重さや効果の不透明性、評価結果公表に対する抵抗感のほか、評価機関や評価調査者への不信があった。abc 評価の基準が曖昧で、評価機関・評価調査者の裁量に委ねられてきたので、甘い評価や見当違いの評価コメントも横行し、事業者側の不信を増長していた。

国は、第三者評価の意義を高く認識しており、こうした局面の打開を図るべく、受審の義務化とともに評価基準の厳格化を打ち出した。そして社会的養護関係施設の義務化に続いて、保育所についても 28 年以降、5 年のうちに受審するよう指導（受審料の一部補助適用）している。

義務化は、今後他の福祉事業にも拡大してゆくだらう。ある県では、特養整備の応募要件に第三者評価の受審または受審確約を付すなど、間接的ながら受審の義務化が進められている。

一方、評価機関に対しても abc 評価の厳格化や機関内部研修の徹底を求めている。また評価全項目それぞれにコメントを付すことが決まった。これは我々評価機関にとっては大きな負担となる。abc の新基準によれば、多くの項目では「a」（できている）にならず、「b」（できているが十分ではない）以下にならざるを得ず、従って、コメントには何が不十分かを明記しなければいけない。

これが公表されれば、利用者やその家族等の事業所を見る目が厳しくなり、当然事業所と評価機関の合意も難しくなる。評価する側も受ける側も“適当”では済まされない。これまでの 10 年余は受審の低迷が多くの評価機関を淘汰してきたのであるが、今後は評価の重責が評価機関を淘汰する時代となるだろう。

そんな中で、保育所の義務化が始る。保育所の数は膨大で、例えば大阪府下に限っても公立市立あわせて 1200 ケ所に及び、かりに 5 年にその全数が受審するならば、府下の評価機関は平均年 15 ケ所の保育所を評価しなければならないのだ。

ふくてっくは、これまで障がい福祉に重点をおいてきた。今年は社会的養護 1 件、障がい福祉 2 件を併行して取組みつつある。とても保育所にまで手は及ばないが、いずれ取り組むときもくるだろう。保育も地域福祉の課題が集積した重要なテーマに違いはない。

（中北 清）



東大阪部会



昨年11月のふくてっく定例会でお話いたしました『モノづくり東大阪』。
この時の東大阪の商品をピックアップさせていただき、再びこの場をお借りして紹介させていただきます。

とれるNo.1

～環境や人に優しい安全で安心なものづくり～
株式会社アドバンス

★きっかけは・・・？

池の水をなんとかきれいにできないか？ということがきっかけだったようです。その池は琵琶湖の水を引き入れており、琵琶湖で絶滅危機である魚介類が生息していたのですが、ヘドロで汚れて危険な状態だったようです。そこで、開発されたのが・・・「とれるNo.1」

★その特徴は？

「とれるNo.1」は、米ぬか・フスマ・酵素・そして有益微生物からできたバイオ洗剤！通常の石鹸は、界面活性剤が汚れを包み込んでそのまま水に流れます。

「とれるNo.1」には、界面活性剤が含まれていません。含まれるのは有益微生物。この微生物が汚れを食べてくれることで、汚れが落ちきれいになります。その後、分解力は活動し続け、排水管・下水・川を浄化してくれるのです。

★使ってみました♥

油污れでギトギトのコンロに使ってみました。コンロ全体にスプレーし、少したって拭くととてもきれいに汚れがとれました。微生物が食べてくれたのね！って感じです。ちょっと独特のにおいがありますが、本当にきれいになりました。



ペンデメクルン

～硬質塩ビの成型を中心としたモノづくりの会社～
㈱創信工業

ペンデメクルンは、ペンなどの筆記用具に取付け、紙めくりの補助をしてくれるステーションナリーグッズです。カラーは8色ありとてもきれい！キャラクター商品もあります。くまモンや「必勝ペンデメクルン」などもあり「すべらない紙めくり」として受験生の験担ぎとしても人気があります。

★使ってみました♥

私は、石切さんのキャラクター「いし麒麟」のペンデメクルンを入手しました。ペンに付けると、いし麒麟は愛らしく、実際に紙もしっかりめくれます。そして何それ？？という感じで会話のきっかけにもなっちゃいます。



まもりーの

～独自技術のモノづくりから快適環境を提案します～
森村金属株式会社

子どもが誤って鍵をかけて、ベランダの閉め出しを防ぐ「まもりーの」。換気や警告機能備えた補助錠です。

①ベランダの閉め出し防止

ベランダに出ている時、室内から子どもが誤ってロックするのを防ぐ。

②窓を開けて換気しながらロック

5cm又は8cmの窓の隙間をつかってロックすることができます。換気ができるし、室内のペットが逃げ出したりすることがありません。

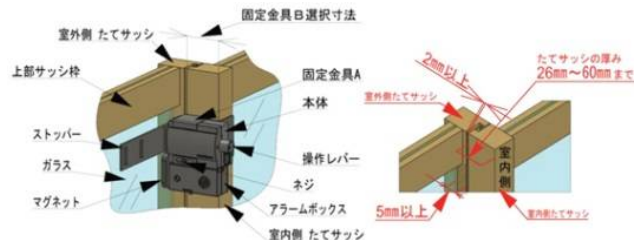
③LEDとアラーム音で侵入者に警告！！

人が近づくとLEDランプが光り、窓を開けようとするとアラーム音で警告するというタイプもありますよ。

★使ってみました♥

「まもりーの」は、ハイグレードタイプとスタンダードタイプの2種類があります。ハイグレードタイプはLEDランプ+警告音機能が備わっていますが、私はスタンダードタイプを2個購入しました。取付の際、ストッパーとなるツメの掛かり代の調整が難しく、つけてしまうとなかなか取り外しが困難なので要注意です。

1ヶ所はうまくつけたのですが、もう1ヶ所はちょっと失敗し、通常の開閉の時に少し引っかかります。しかしながら、補助錠として十分機能しています。



この様に、東大阪では「オンリーワン」「ナンバーワン」「プラスアルファ」の3つの基準のいずれかに該当する、東大阪から誕生した様々な製品を「東大阪ブランド」と認定しています。
(寺岡 春恵)



定例会の時に使ったミニブック

NEWS

「池島ふれあいまつり」

十一月二十三日祝日

毎年恒例となっている港区「池島ふれあいまつり」に今年も十二名で参加しました。

十時開始の合図と共に徐々に子どもたちが集まりだし盛況です。毎年子どもたちには順番に並んで待つてもらいますが、混雑しいつも少なからず問題がありました。しかし今年には番号札を配布する事である程度の混乱は回避できたかなと思っています。

大きな木材から小さくカットした端材、自然木等も多く用意し、子どもたちには自由に製作してもらおう事をメインにしており、今年も創意工夫豊かな作品に数多く出会う事が出来ました。

昨年盛況だった「丸太切り」はあまり人気がなく、デモンストレーションが弱かったのか？小さな子が少し体験するだけとなりました。

今年から「ものづくり活動」に新たに「グルーガン（ホットボンド）」を投入しました。木工ボンドが乾く



「ものづくり」奮闘中

まで（接着が効くまで）手が止まっていた所を、このグルーガンを使い樹脂で仮止めする事で随分と時間短縮が図れました。当初は熱を持つ道具だったのでふくてっく側で対応するつもりでしたが、参加の親御さんや子どもたちは「使えます！」「大丈夫、よく使ってますから！」と慣れた手つきで利用している姿には少しびびりしました。その横では負けじと？『ふくてっくのこだわり』と？『茹田、佐久川コンビが電動工具を使い完成度の高い作品をサポートしています』

その一方、まつり終了の十五時までに使わなかった材料については今年も多くの廃棄処分をする事になってしまいました。良い事はかりではなく、反省する部分もありました。終了後は反省会と銘打った『打ち上げ』をし、感想や問題点など意見を交換し、最後はみんなでもまた元気に来年も参加する事を誓いました。

「里山お花見」

三月二十六日土曜日

これまで何度もお世話になっている「生駒いもり里山サポーターズ」での念願だった『お花見』に九名で行ってきました。メインの山桜は六七分咲きでしたが、山全体の草花は一番の見頃をむかえ、山道脇の斜面では本当に自然の美しさを満喫する事が出来ました。

里山の小屋に到着するとサポーターズの西川さん達による花見宴の準備が出来ており、テンションが上がったのもつかの間、西川さんからお昼の食材取に行きまっ



山桜と一緒に

せし」の合図で登山？をする事に。「何が食べられるの？これはヨモギ？」「タンポポって食べるよなあ・・・」と草むしりみたいになりました。が、「自分で食べる分だけ摘んでや！」の声掛けにみんな半信半疑で山菜を集めていました。摘んできたヨモギやタンポポ以外に事前に準備してくださったついでにユキノシタ・タラの芽・ふきのとう・野蒜（ノビル）・たけのこなどを天ぷら奉行の西川さんに屋外で揚げて頂き、普段口に出れないものまで食事ができ、大変貴重な体験が出来ました。何故か単なる草？が屋外だと二・三割増しにおいしく感じるの不思議ですが、天ぷらのおかけかお酒の力か？ちよつと異空間での出来事の様でした。最近ふくてっくの屋外での遊びごとには欠かせなくなってきた『中北焼き芋名人』にも腕を振るって頂き、今回は安納芋を濡れた新聞紙で包んで焼く事でさらにおいしくなり、最高に甘くてとろりととした焼き芋を食すことが出来ました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、これからも「ものづくり活動」への協力として自然木の提供及び加工作業のお願いをして、ろくに片づけもせず夢見心地の中みんなで下山しました。



里山にて材料調達



加工作業風景

最後にありますが、今回お世話して下さった西川御夫婦、里山を管理されているサポーターズのみなさん本当に有難うございました。是非来年もお花見したいのでよろしくお願ひします。

「里山材料調達」

四月二十三日土曜日

前日まで天候が不安定で心配していましたが見事に晴天となり、いもり里山へ材料調達に六名で行ってきました。

いつもの流れとして慣れたもので、まずはみんなが木材置き場に伐採した木材を個別に行き、ナタとノコギリで持ち運べるサイズにカットして作業場に戻って加工しました。お借りする電動工具の整備も茹田さん、松本さんがいないと動かない様な状態ですが、準備が出来れば一気に轟音の中サンプル材が出来上がっていきます。

太い枝や細い枝の輪切り、枝分れた材料などを手に持って帰れるだけ調達して今回の作業は終了。

今回は小屋の中で昼食をとりましたが、旬のタケノコを炊いた物やシカの燻製を食べながら持参のお弁当と冷たい飲み物で疲れを癒しました。

「有馬工房・加工作業」五月十四日土曜日

九名の参加により「有馬工房」での木材加工を実施しました。いつも有馬工房を利用させて頂く時は晴天で暑いのですが、今回は曇り空で、水分補給しないう意識が遠のく程の暑さでした。

材料を後藤さんから提供頂きましたが色々なサイズの木材があり、まずは仕分けをする所から始め、参加者みんなで一気に切断加工に取り掛かりました。みなさん黙りに作業したおかげで多くの材料が準備できました。

いつも道路まではみ出し作業しているのですが、今回も工房前をご近所さん達が横目に笑顔で通り過ぎて、また声をかけてくる人もいて木材作業にみなさん興味があるようでした。

この準備で次回のものづくり活動は安心、子どもたちの楽しんでる風景が想像できうれしくなりました。いつもお世話になっている有馬さんには本当に感謝ですが、これからもよろしくお願ひします。

(小川 忠雄)

「すべらんうどん」

ユニバーサルデザインフェア



神戸市では、年齢・性別・文化・国籍や民族・身体状況など、人がもつ個性や違いを越えて、お互いに多様性を認め合い、すべての人が持てる力を発揮し支えあう「ユニバーサル社会」の実現に向け、ユニバーサルデザイン（以下UD）の推進に取り組んでいます。その一環で「こうべユニバーサルデザインフェア」を開催します。

出展コーナー

企業や地域団体、学校が、衣・食・住をテーマとしたUDの取り組みを発表します。展示だけでなく、来場者が体験できる場も設けています。

- ・着心地のよいウェア紹介（ミズノ、ワコール）
- ・だれもが食べやすい食品紹介

（うどん双樹のUDうどん、旭松食品の高野豆腐）

- ・使いやすいUD商品紹介（便利な服薬トレーや防災グッズ）
- ・体験
- （点字、手話、スポーツ、UDかるた・ゲームなど）
- ・東北の障がい者施設で製造されている菓子や豆腐の販売

ステージプログラム

UDファッショニング講座 だれもが素敵に心地よく着るファッショニングや眠っている着物をリメイクし、本来の良さを活かした生まれ変わらせるファッショニングのポイントをショー形式で紹介する「UDファッショニング講座」や、バルーンアート、クラウン（道化師）などのパフォーマンスショーで会場を盛り上げる楽しい企画が満載です（以上、神戸市HPより）



こうべユニバーサルデザインシンボルマーク

しあわせの村

ふくてつくは今年も「すべらんうどん」の販売にはりきって行ってまいりました。三月二十日（日）晴れ（風強し）神戸しあわせの村体育館前にお店を構え、「いらっしやいませ〜」と準備万端。ここでの販売は三回目です。



UDうどん『すべらんうどん』はおかげさまで今回も完売!!
まいどおおきに (^o^)/



情もわかり、要領もつかめてきました。誰が何を担当し、なんてことも自然に決まっています。

ここで「すべらんうどん」の説明を・・・ふくてつく会員の岡さんが開発し、製法特許を取得している「うどん双樹」のユニバーサルデザインが入っており、そのスリットにお箸やフォークが引っかけることにより、大変食べやすくなっています。大阪天満宮の星合池（亀の池）にお店があり、「すべらん」という名前から受験の縁起物としても大変人気があります。



この日は風が強く少し肌寒いということもあってか、あるいはここでのすべらんうどんの認知度が上がったのか、売れ行きはいつもより良く、十二時を過ぎるころには多くのお客さんにお待ちいただくことになりました。

麵ゆで係の稲住さん、小川さんは湯切りを腕を酷使し筋肉痛。うどんスープ係の曾我部さんはおいしいそうな香りを嗅ぎすぎて胸いっぱい。配膳係の松田さん、島村さんは「〇番の方」と声を張り上げ、喉ガラガラ。受付係の山本さんはいつも冷静で、まかせとき！応援に来てくださった原田さんは笑顔と落ち着いた対応で、こちらがほっこり。若田さんと荻田さんは自由人。看板息子の岡さんはどっしり構えてにらみをかきす。私、和泉はお金大事で一步も動かさず。

今回は番号札をお客さんに渡したので、お客さんも番号を見ながら「まだかな、今は何番やな」と冷静に辛抱強く待ってくださいました。そして準備した二百五十食は二時半頃には完売となりました。

充実した楽しい一日でした。心地よい疲れは帰ってからのビールを一層美味しいものにしてくれたのではないのでしょうか。参加したことのない会員の方、来年はいかがですか？おいしいおうどんが食べられますよ（和泉 秀子）





親睦会



ただいま
焼き芋準備
中!!

カニ さばきま〜す!



毎年恒例 『カニ会』報告

継続は力なり!今年はより多くの方に参加していただけるよう、二度開催しました。

三月十二日は岡会員の能勢別荘の掃除を兼ねて一泊です。布団を干して掃除をするお泊まり準備チームと落ち葉や屋根の掃除、生け垣を整える力仕事チームに分かれ作業開始。

佐久川会員は、屋根の掃除だけをして帰っていかれ、岡会員は、京都からタクシーを飛ばして、『ごくろうさまです』とだけ伝えて帰られました。私は植木職人になり、生け垣をバツバツと切り落とし、焚火のところに!そこで、中北名人の手による美味しい焼き芋ができました。夜の宴会は、帰る必要がないというのでピッチが上がり炬燵でグースカ。締め雑炊は朝ごはんに持越しとなりました。

楽しい充実した二日間でした。



来年もやりたい!!



まだまだ、これから!!



三月二十一日は毎年お世話になっているOhana 食堂さんで、有馬会員の米寿にあやかりたい十一名が集まり、お祝いとカニを食べ、歌いまくるといふ賑やかなカニ会になりました。小川理事長は、食べることなく、挨拶だけして帰られました!

お酒も美味しくカニも美味しく、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。

いつもいろいろとわがままを聞いてくださるOhana 食堂ご夫婦に、そして準備をお手伝いしてくれる会員の皆様に、心から感謝です!

(曾我部 千鶴美)

障がい者に希望を届ける鍼治療 「YNSA 山元式新頭鍼療法」

吉村 吉隆

私は柔道整復師・鍼灸師として鍼灸整骨院の院長をしています。知り合いの紹介で脳神経疾患・脳出血・脳梗塞・脳卒中・片麻痺・パーキンソン病等に絶大な効果を示す、山元医師が確立した「山元式新頭鍼療法 YNSA」のイントロダクションセミナーに、興味半分、冷やかし半分で参加しました。今まで我々の分野では効果を出すことは容易ではないと言われてきた範囲の治療であり、頭の鍼も自律神経系に効果を引き出すものとしか私の中では捉えていませんでした。

紹介ビデオと、さわりの治療の仕方を見ただけです。衝撃的でした。頭に鍼をするだけで、今まで片麻痺で立つ事も腕を動かす事も出来なかった人が動いているのです。早速資料や本を取り寄せ、それを元に治療を行ったところ、今まで腰のヘルニアのオペ後の神経痛で治りの悪かった人や、首が悪いため手が痺ればなしで症状の変わらなかった人たちが、立て続けに良くなって行きました。これはスゴイ技術だと思いつつ4月上旬、宮崎県にある創始者の山元先生のクリニックで5日間泊まり込みのセミナーに参加しました。

山元クリニックには日本を飛び越え海外の医師達はその技術を学びたいとやってきます。ブラジル・ドイツ・アメリカ・イタリアなど日本よりも海外の方が名が知られているのです。元々医師・歯科医師・獣医師にしかセミナーは開いてなかったのですが、山元先生も86歳と高齢になられてきた事もあり、4～5年前からこの素晴らしい技術をもっと日本に広げようと、我々鍼灸師にも教えて頂けるようになりました。

5日間のセミナーはあっという間に終わりましたが、人生観が変わるとも素晴らしい体験、奇跡を沢山見させてもらいました。この技術ですべての人がよくなる事は難しいかもしれませんが、障がいのある方達にも可能性、希望はまだ残っていると確信しました。



会員コラム

デザイン×社会福祉

劉 琳

最近外付ハードディスクの中身を整理する際に、面白い発見がありました。学部時代の卒業デザインの構想発表をする前に、指導教授から発表準備に参考するための書類(表1)をもらいました。今社会福祉を専攻している私は、この書類を見たら、あれ?卒論の構想発表の留意事項(表2)によく似ているではないか、と気づきました。

デザインときたら、よくアウトプット(作品)が考えられますが、実はデザインのプロセス(デザイン法)も最近重視されるようになって、デザインの概念がますます抽象的になってきました。デザインと社会福祉のような全く違う分野の間にも、どこか共通しているかもしれない、と感じました。

(表1)

- ① あなたの卒業制作プロジェクトのテーマは何ですか。
- ② そのテーマが属する分野を表すクエスチョンを3つ考えて。
- ③ そのテーマのバックグラウンド情報を通して、既存の知識や研究動向を説明して。
- ④ このプロジェクトがデザイン分野における意味は何ですか。
- ⑤ あなたはこのプロジェクトに取り込むのに相応しい理由は何ですか。
- ⑥ あなたはこのプロジェクトを通して何を学びたいですか。

(表2)

- ① 修士論文の構想について、要点を明確に、要領よく発表してください。
- ② 発表レジュメには、研究テーマ、研究目的、研究方法、研究計画、先行研究の検討、参考文献など明記してください。
- ③ 何を(What)、なぜ(why)、どのように(How)、研究するのかを聞き手にわかるようなプレゼンテーションを心がけてください



「あの日のお客様の会話 十一」

秋岡 安



客: 熊本地方の地震本当に大変だね。
私: 亡くなられた方々、被災されたすべての方々には心からお見舞い申し上げます。熊本は私の生まれ故郷です。本当に辛いです。

客: そうなんだ。親戚とか大丈夫?
私: 犠牲者はなかったです。でも家の中がぐちゃぐちゃです。避難している人や車中泊の人もいました。

客: なにか支援したいけど。
私: いろんな方法があります。ボランティアで現地に行くとか、義援金や支援金を送るとかいろんな方法があります。

客: 義援金と支援金とどう違うの?
私: 義援金は災害により生命・財産に大きな被害を受けた方々に対する見舞金であり、被災者へ全額支給されるものです。支援金は被災地で活動を行う団体や機関に対して支払われるものです。

客: 義援金と支援金の税制上の違いは?
私: 義援金は適正な手続きをとった場合には地方公共団体への寄附として扱われ、個人が支払った場合は寄附金控除の対象となり、ふるさと納税の対象にもなります。法人が支払った場合は全額損金(経費)になります。支援金の場合は相手先の形態によって違います。相手先が認定NPO法人、公益社団・財団法人等の特定公益増進法人であり、かつその支援金はその団体の本来の目的に関連するものである時は、個人なら寄附金控除の対象になり、法人の場合は損金(経費)にできる枠が広がります。

客: 早く余震が止んでほしいね。
私: 本当にそのとおりです。復興には時間がかかりますので、私もできる範囲で長期間支援していこうと思っています。

引用図書: 認定NPO法人NPO会計・税務専門家ネットワーク発行「NPOのための義援金・支援金の会計・税務の実務(第3版)」

■ H28年1月以降 学習会

- 1月 親睦会 (学習会なし)
- 2月 「空き家・空きビル・空き地の福祉活用」
講師：中北 清会員
- 3月 「要介護になるリスクを減らそう」
～ロモティブシフトホームを知りましょう～
講師：吉村 吉隆氏
柔道整復師・鍼灸師
- 4月 「eトコ・プロジェクトについて」
～家族と地域の再生をめざす～
講師：金 香百合氏
eトコ・プロジェクト代表
- 5月 「第三者評価を通してみた
保育現場の現状」
講師：樋口 和恵氏
保育運動センター
- 6月 「発達障がい子どもたちへの自立支援」
講師：木戸 貴之氏
(社福) 北摂杉の子会・生産活動支援部
LaLa-chocolat TAKATSUKI



■ H28年度 定例会・学習会予定

- 7月 2日 13:30～17:00
会 場：大阪市立社会福祉センター
学習会：(仮)障害者差別解消法について
- 8月 6日 13:30～17:00
会 場：大阪市立社会福祉センター
総会
- 9月 3日 13:30～17:00
会 場：ふれぼの (西宮)
学習会：地域共生館「ふれぼの」見学会

ことば・コトバ

【 アウトリーチ 】

「手を差しのべること」の意
援助が必要であるにもかかわらず、自発的に申し出をしない人々に対して、住民・民生委員・公共機関などが積極的に働きかけて支援の実現をめざすこと。医療機関が、在宅の患者や要介護者を訪問して社会生活を支援する活動など。訪問支援

和泉 秀子



◆ 外部連携 ◆

- 一月二十四日 宅老連フォーラム「高齢者の住まい」に参加
- 二月十一日 市民後見人・成年後見制度啓発シンポジウム「これからの認知施策の推進と市民後見人への期待」に参加
- 三月三日 ばあとなあ「にじの会 つばさグループ三十周年」の冊子とDVDを預かりました。
- 三月十九日 ムーブメント五・五周年イベントに参加
- 三月二十六日 障がい者BCPシンポジウムに参加
- 四月二十三日 介護問題連続シンポジウム「疲弊する介護の現場」に参加



〒事務局より

★理事会・運営会議
開催無し

☆ふくてっくジョーグズ報告
一月十七日小川会員は、

「摂津淀川マラソン(五キロ)」
に参加、障がい児を初伴走。

☆有馬会員米寿のお祝い
三月五日

ふくてっく設立時(福祉機器住宅研究会)からの会員有馬さんが米寿を迎えられ三月定例会にて会員からお祝いの花束を贈呈しました



NPO 法人ふくてっくとは・・・

ふくてっくには、建築・医療・福祉分野の有資格その他、多岐に亘る専門職が参加しており、お互いの専門領域における見識と誇りを大切にしつつ、相互の研鑽しあう機会を育てています。キーワードは「生活者の視点、当たり前の感覚です。」

是非あなたも仲間に入って、自らの人生を耕しませんか。一度、定例会(原則：毎月第1土曜日、13:30～)にご参加ください。定例会では、会員の活動報告や講師を招いての学習会等を行っています。正会員以外の方が定例会に参加される場合は、参加費 500 円です。

*会費：入会金/無料

：年会費/正会員 10,000 円、学生会員 3,000 円、通信会員 500 円

*連絡先：TEL 06-6614-6800

ホームページ <http://fukutech.sakura.ne.jp/>

メールアドレス mail@fukutech.sakura.ne.jp

